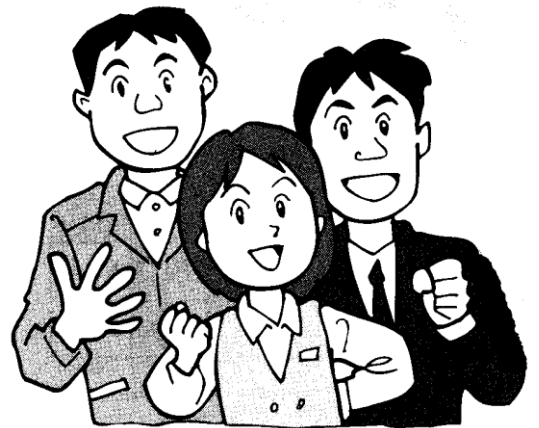


重工産業労働組合は、東は東京から西は岡山までの地方にいくつかの支部を組織しています。

それぞれの支部は、その地域の特色や様々な経験を生かし、知恵を出し合い、自らの雇用や労働条件の維持や向上を図っています。今回は京滋地方にある支部の闘いを紹介します。 2021, 11. 1

労働者の団結で請負職場切り捨てを撤回させた

製造会社内にある下請け企業が「請負契約解除」を親会社から突如通告されました。下請け企業の経営者を含めそこで働く労働者に大きな衝撃が走りました。一方的な請負契約解除は許せないと、その職場にいる組合員が中心となって、周りの労働者に働きかけ、親会社の会長宛に、自分たちの雇用不安の気持ちや生活実態を伝えるとともに、請負切り捨てをやめてほしいとの要請文を、半数以上の労働者を組織し、直筆で連名して送り届けました。一方支部としては、常々下請け企業経営者の相談に乗っていた関係で、法律上の相談は弁護士へ、地域挙げての下請け切り捨て反対闘争は地域労組との共同行動で、また親会社の本社への要請などとしては等など提案し、下請け会社挙げての取り組みを展開しました。それらが力となって親会社の本社から、「下請け企業の切り捨てはまかりならん。即刻取りやめるように」との言明が下され、下請け企業の存続と、その労働者の生活と雇用が守ることが出来ました。あきらめず、最後まで闘ってこそ勝ち取れた成果でした。



未払い賃金を労働者の手に

介護関係の職場では、様々な労働者への理不尽なことや賃金未払いなどが生じていました。そこに働く組合員が、不当なことは許せないと、その実態などを調査してまとめ、賃金未払いの情報を労基署に提供したことで、立ち入り調査が行われ、勧告が出され、2年間を遡り数十万円の支払いが行われました。しかしまだまだ改善する状況があるので、今後も働きやすい職場を作っていくために頑張っていきたいとその組合員は語っていました。